

TAKAOKA DESIGN & CRAFT CENTER
NEWS LETTER

2019

8

August

vol.04

COVER STORY

音と形をデザインする 高岡に響く風鈴の音色 - 高岡銅器協同組合の取り組み -

イベント情報 ◆ 第46回 高岡巧美会展
素のものワークショップ - 手の仕事 野の遊び -



「circus(サーカス)」

大人の雰囲気漂うブルーの風鈴。
稜線からのぞく真鍮色との対比が美しい。



音と形をデザインする
高岡に響く風鈴の音色

高岡銅器協同組合の取り組み

たかおかどうききょうどうくみあい
高岡銅器協同組合

銅器卸業で構成される組合。
設立年月日 昭和30年4月8日
組合員数 54社

高岡銅器



(上) 銅器組合の取り組みで新たにつくられた風鈴

音と形をデザインする 高岡に響く風鈴の音色

2015年3月に開業した北陸新幹線。東京、金沢間の停車駅として「新高岡駅」は完成した。毎年7月になると駅の改札口に涼しげな風鈴の音色が訪れる人を出迎えてくれる。2019年夏、ここに新たな風鈴が加わった。

駅に風鈴を吊す取り組みを行っているのは、銅器卸業で構成される「高岡銅器協同組合」。高岡は全国でも有数の銅器の産地。組合には仏具、茶道具や美術銅器などを取り扱う企業が名を連ねる。同組合は65年前に発足。高岡銅器のPR、商品開発など各種事業を行う。

現在、理事長を務めるのは四津川元将（よつかわもとまさ）氏。四津川氏の会社は高岡市金屋町にある有限会社四津川製作所。戦後、鑄物の鑄造所として創業。昭和57年、企画販売業に転業し、現在は元将氏が3代目の社長を継いでいる。

音にこだわってきた歴史

四津川氏が同組合の理事長となった2016年、これまで高岡ではまだ数社しか作っていなかった風鈴を組合事業として企画・製造の後押しを行い、商品化に向けて取り組み始めようと考えはじめた。

きっかけは平成5年から組合事業として夏の期間、当時のJR高岡駅（現在のあいの風とやま鉄道の高岡駅）のプラットホームに吊るした風鈴だった。このころ、城端線、氷見線、北陸本線プラットホームに風鈴約300個をつるして「銅器の街高岡」として駅利用者をお出迎えしていた。この風鈴の多くは、県外で作られた鉄製の「鳴り」と呼ばれる音の鳴る部分とその上部に高岡で製造した灯籠などを模した装飾を付けたものだった。しかし、これらが鳴りの部分も含めてすべて「高岡製の風鈴」だと間違った情報が宣伝されるようになった。



平成28年から、高岡銅器協同組合の23代理事長を務める四津川さん。写真は、2016年にオープンした四津川製作所ショールームにて撮影。



「クリーム」

絞り出したホイップクリームのようなぷっくりとしたデザインがかわいらしい。参加企業が自社でデザインした。



「GOUKAKU FUURIN」

五角形のかたちをした風鈴。「合格」祈願におすすめ。

吊るされた風鈴全てが高岡で作られたものではないことへの後ろめたい気持ち強くした四津川氏になんとかここに吊るす風鈴を本当の意味での高岡製の風鈴にできないかという想いが芽生えた。

高岡は「音」にこだわったものづくりをしてきた歴史がある。古くから梵鐘や仏具の鈴（りん）を製造してきた技術を生かし、見た目の美しさだけではなく、良い音を人々の暮らしに提供してきた高岡だからこそできることでもあった。



四津川氏が組合の理事長に就任した2016年からさっそく組合の事業で新商品として高岡の銅器製造技術を活かした風鈴の開発に取り組むこととなる。まずは、加盟組合企業に参加しやすい状況を作るため、製作補助やデザインの提供など組合がバックアップし、下準備を整えた上で賛同企業を募ることにした。

自社でデザインできない企業に向けてまず用意したのは風鈴のデザインだった。デザインは地場産業界に

向けた支援を行う、高岡市デザイン・工芸センターに依頼し、数か月後、数種類のデザインが出来上がった。組合のなかでの話し合いを経て、採用されたのは4種類。ここからさらに音や製造面で実現が可能なデザイン3種が絞り込まれた。

このなかからオリーブの実を模った風鈴デザインを採用した企業がいる。市内で銅器の置物を取り扱う、大谷喜作商店の大谷彰郎（おおたに あきお）さんだ。

「オリーブ」との出会い

大谷喜作商店は主に銅器の置物を扱い、中でも三枝惣太郎氏の作品は顧問作家として数多くの作品を提供し、商品化している。既存の商品だけではなく、新しい商材にも挑戦したいと考えていた中で加盟している銅器協同組合で、風鈴事業の話が持ち上がった。

市デザイン・工芸センターからのデザイン提案の中にオリーブの実のデザインを見つけたときには縁を感じたという大谷さん。実は、大谷喜作商店では銅器を取り扱う問屋として青銅色に近いグリーンオリーブの色をコーポレートカラーに採用している。名刺やカタログにもこの色を使用している。「オリーブ」という共通点に縁を感じたと同時に風鈴の意匠としてもひとめぼれし、これを形にしたいと思った。

試行錯誤から得たもの

もともとのデザイン案ではサイズが一回り小さかったが、実際に試作して



「オリーブ」
大谷喜作商店から発売された。色も形も成熟したオリーブのよう。



（左）おだやかな物腰の大谷さん。その言葉からは良い商品を作りたいという熱い思いを感じる。（右）大谷喜作商店の顧問作家、三枝惣太郎氏の置物は愛らしい形が特徴だ。

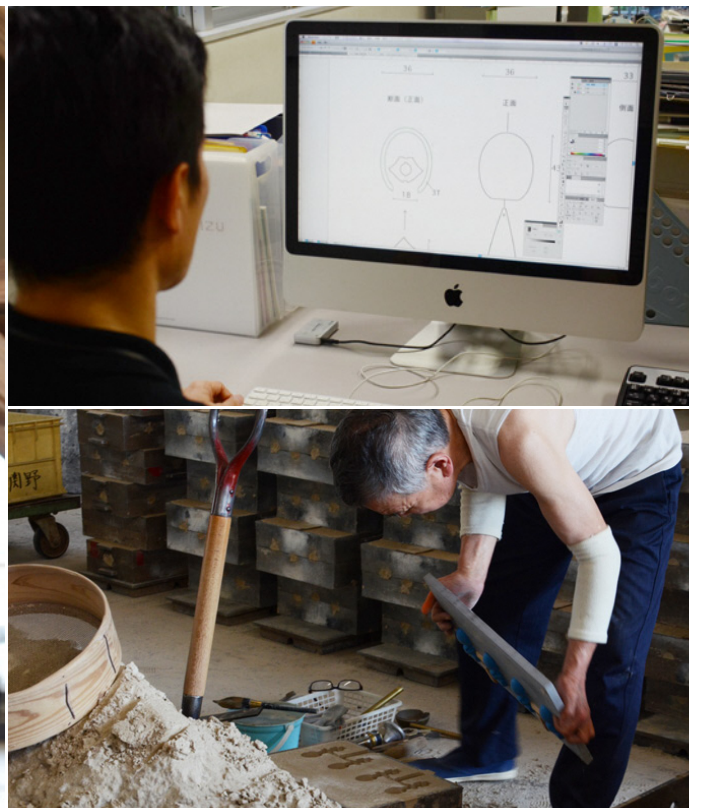
みると音が鳴りにくいことがわかった。音が心地よく響き、「オリーブ」としての印象が変わらないサイズを探り試作を繰り返した。また、よく響く構造を鋳物メーカーの社長から提案いただくなど、製造現場とのやりとりからもアイデアが生まれた。鳴りにくい原因としてゼツの形状の問題もあったが、形状を変えることで一番しっくりくる音を目指した。

完成したこの風鈴は落ち着いた音色の、良い意味で「鳴りすぎない」理想の音だ。完熟したブラックオリーブの色に着色し、形状、音、色ともに全体としてシックに仕上がった。「なんとかこのデザインで製品化したい」という大谷さんの強い想いが叶った。

風鈴の構造としてはとても手がかかるデザインだったがその分得るものも多かったという。今後はこの商品開発をきっかけとしてオリーブをテーマにほかの商品にも展開を広げていきたいと話してくれた。



新高岡駅に設置された風鈴。幼稚園児の願い事を書いた短冊がつけられた。展示期間は2019年9月2日まで。



(上)「オリーブ」を手掛ける市デザイン・工芸センターの職員。
(下) 職人がひとつひとつ手で鑄型を起こしてつくる。

共感してくれる仲間たちの存在

今回の事業では今まで他の組合事業に参加してけれなかった企業が賛同し取り組んでくれた。四津川理事長は「様々な業態の集まりはまとまることが難しいが、なにか「面白い」と共感してくれる仲間を増やしていきたい」と語る。参加した大谷喜作商店の大谷さんも「ひとりで商品開発を行っていたら途中で諦めていたかもしれない。でもほかのメンバーがいたことでなんとか形にしてやろうという気持ちがあわいてきた」と話す。この風鈴事業ではものづくりだけではない成果が生まれたようだ。

これら、完成した風鈴は全16種類。新高岡駅にて訪れる者の心を癒している。

風鈴の販売店

(公財)高岡地域地場産業センター
高岡市開発本町1-1

高岡御車山会館
高岡市守山町47-1

ギャラリー「MONONO-FU」
高岡市下黒田3012番地
新高岡駅観光交流センター内

いっぽ堂
高岡市末広町14-43

●新商品の風鈴に関する問合せ先

高岡銅器協同組合 URL www.doukikumiai.com ☎ 0766-23-8210 e-mail douki@themis.ocn.ne.jp

8月29日(木)～9月1日(日)

技の美、咲き競う。

第46回 高岡巧美会展

高岡開町より受け継がれる「高岡銅器」と「高岡漆器」。高岡市伝統工芸産業技術保持者の指定を受けた技術者「高岡巧美会(たくみかい)」の名工たちの技が作り出す美の世界を一堂に展示します。この機会に高岡が誇る伝統工芸の粋をご覧ください。入場無料。

会場 高岡市美術館市民ギャラリー
(高岡市中川1丁目 1-1-30)

日時 令和元年8月29日(木)～9月1日(日)
午前9時30分～午後5時(最終日は午後4時30分まで)

主催/高岡巧美会
高岡巧美会事務局(高岡市デザイン・工芸センター内) ☎ 0766-62-0520



9月21日(土)～9月22日(日)

今年も開催!

素のもののワークショップ - 手の仕事 野の遊び -

「工芸都市 高岡の秋」と銘打って今年も高岡市中心市街地を拠点にクラフト関連イベントが目白押し。市デザイン・工芸センターでは昨年度大盛況だった金属、漆、土を使ったワークショップ「素のもののワークショップ」を開催します。今年のテーマは、野遊び。日々の暮らしをちょっと豊かにしてくれる道具を作ってみませんか?

開催日 令和元年9月21日(土)、22日(日)
各ワークショップにより実施時間や定員が異なります。

問合せ 高岡市デザイン・工芸センター ☎ 0766-62-0520
URL <https://www.suncenter.co.jp/takaoka/>

会場・申込先
①～④ 高岡市デザイン・工芸センター ☎ 0766-62-0520
⑤ ㈱能作本社 ☎ 0766-63-0001



内容

- ① 鍛金による銅のケトル (18,000円)
- ② 拭き漆の曲げわっぱと箸 (10,000円)
- ③ 真鍮鑄物のバードコール (3,000円)
- ④ 1合炊き土かまど (6,500円)
- ⑤ 錫の器と苔玉やお花を使ったグリーンインテリア (2,000円～)

[Facebook \(facebook.com/sunomono.workshop/\)](https://facebook.com/sunomono.workshop/) も随時更新!

